

# 日本原子力学会核燃料部会

## 平成18年度第一回運営委員会議事録

日時 : 平成18年5月17日(水)13:30-15:30

場所 : 原子力学会事務局 会議室

出席者 : (順不同 敬称略)

山脇部会長、山本副部会長、安部田委員、磯部委員、伊東委員、今村委員、岩田委員、大澤委員、緒方委員、木下委員、寺井委員、野田委員、平井委員、更田委員、藤田(千)委員、米田委員、和田委員、大橋氏(来山委員代理)、三島氏(JNFL/説明補助)

### 議事

#### 1. 前回運営委員会および総会議事録案確認

- ・野田委員から資料1-1、1-2に基づき前回運営委員会および総会議事録案の紹介があり、メーリングリストでのコメントを反映しHPに掲載済みであるが、再確認の依頼があった。なお、コメントがなければ議事録案を正とする。

#### 2. 平成18年度運営委員について

- ・野田委員から、資料2-1に基づき平成17年度末の運営委員変更の紹介があった。
- ・野田委員から資料2-2に基づき2007年度業務分担案の説明があった。①2008年度、2009年度も含めた長期案を検討すること、②過去の実績から業務分担の周期等を勘案し、業務分担を決めるルールを決めてから案を作成すること、等の意見があり、再度2007年度案を再検討することとなった。なお、2007年度の企業夏期セミナー幹事は早急に決める必要があるため、優先して調整することとなった。

#### 3. 平成17年度決算報告

- ・野田委員から資料3に基づき平成18年3月実績を反映した平成17年度決算の説明があった。平成18年3月の前回運営委員会および総会での決算予想報告から収支の大筋に変更はないこと、5月18日の総務財務委員会で報告されることが紹介された。

#### 4. 2006年度日韓夏期セミナー(3部会合同)企画立案状況報告

- ・山本副部会長から、3月25日(春の年会中)の部会等運営委員会で資料4-1の2006年日韓原子力学会学生・若手研究者交流事業計画と、資料4-2の事業覚書改定案が承認された旨の紹介があった。部会5グループ、支部5グループから2グループが実施する予定であり、2006年度はI、Vグループが実施予定である。
- ・2003年に核燃料部会、材料部会、核融合工学部会の3部会と韓国側とでMOU(Memorandum of Understanding)を締結しており、春に日本、秋に韓国でセミナーを開催することとしている。山本副部会長に、日韓原子力学会学生・若手研究者交流事業計画と前記MOUとの関係の再調整してもらうこととした。

#### 5. 平成18年度「秋の大会」部門企画セッション企画立案状況報告

・緒方委員から、資料5に基づき2006年秋の大会(9/27-29)企画セッション提案書の提出について報告があった。4月28日が提出期限であり、メールで調整した結果を提出している。なお、他部会の提案書とあわせて5月19日の部会等運営委員会にて審議される予定である。

・提案書提出時点では座長が未定であったが、岩田委員に承諾していただいた。

## 6. 次回部会報(No.42)の企画立案状況報告

磯部委員から資料6に基づき、次期部会報の立案が紹介され、内容、執筆者等について審議した。

- ・特別寄稿として17年度学会論文賞・特賞、技術賞を候補案としたが、核燃料と関係が薄いので候補から外す。奨励賞の件名と、ニュースでの候補としていた2004年ASTM Zr会議での優秀論文を特別寄稿の候補とする。
- ・夏版と冬版を作成し電子メールで送付する。冬版は合本として印刷し送付する。
- ・夏版には夏期セミナー情報を早く掲載して欲しいとの要望があるが、詳細情報はHPに掲載し、電子メールでHPのURLのみを連絡する方法も考えられる。
- ・ニュースとして山脇部会長に研究専門委員会設立について執筆していただく。
- ・企画セッションに掲載予定の2006年春の年会総合講演「材料照射高度化に向けた試験研究炉の高度利用と大学共同利用」の執筆者選考については、更田委員に協力していただく。
- ・2005年水炉京都国際会議報告は、今年度分への掲載について執筆者の意向を確認し、掲載を判断する。
- ・木下委員に今年度実施される国際会議2件について執筆していただく。
- ・ページ数は昨年度22頁と同等の20頁程度になる予定である。

## 7. 平成18年度夏期セミナー企画立案状況報告

米田委員および三島氏から資料7に基づき、夏期セミナーの開催要領、プログラム等の説明があり、審議した。

- ・5月末に発刊される学会誌5月号に夏期セミナーの案内を掲載する予定である。学会誌にプログラムは掲載されないが、核燃料部会のHPで確認できる旨が記載される。
- ・6月15日を締め切りとする。
- ・本委員会審議後に講演者への資料作成依頼を行う。
- ・インドからの招待者をIAEAから紹介してもらったが決定していない。岩田委員に協力してもらいできるだけ早く決定する。なお、調整ができずインドからの招待者の講演を中止する場合もあるが、プログラムの変更は夏期セミナー当日に行う。
- ・講師への謝礼については2004年に制定した内規に従うこととする。野田委員が確認しメールリストで連絡する。
- ・昨年度の参加者と同程度の70名程度の参加者を見込んで計画している。
- ・第二回運営委員会を夏期セミナー2日目の14日昼食時に行う。

## 8. 関係研究専門委員会の活動状況報告

### 8-1.「先進的原子力システムにおける燃料・材料」研究専門委員会

・山協部会長より、材料部会と核燃料部会が合同で立ち上げた研究専門委員会が認められ、近い内に第一回目研究専門委員会を開催したいとの紹介があった。

### 8-2.「核燃料技術基盤の高度化」研究専門委員会

・更田委員より、資料8-2に基づき第一回目研究専門委員会を開催した旨の活動報告があった。

・第二回目は未定であるが、四半期に1回程度は開催したいとの紹介があった。

## 9. その他

木下委員から、TOPフューエルと同時期に中国北京で国際会議を立ち上げる計画があるとの情報紹介があった。

以上

---

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

[過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)